

### 2021年度 成果

- ・「CHANGE FOR THE BLUE in 京都」の活動初年度として、祇園祭やプロジェクト保津川、京都学生祭典、京エコロジーセンターをはじめ、京都府内の行政・民間・学校・団体などの取り組みと積極的に連携することで、より多くの人々に参加を呼び掛けたり、CHANGE FOR THE BLUE事業趣旨や活動について広く周知・啓発することができた。
- ・リュック型ごみ箱「Blue Box」を開発し、活動の場所を問わないという、これまでにない新しいごみ拾いのスタイルも啓発した。
- ・海プロとしても初めて、プロサッカーチーム「京都サンガF.C.」と連携したごみ拾い活動やごみ分別ステーションの運営などを実施。サポーターを中心とする大勢の来場者と「海洋ごみ問題」について一緒に考えるきっかけを構築し、CFB事業の啓発につなげた。
- ・東山八ツ橋本舗と連携し、オリジナル「塩つぶ餡入り生八ツ橋」を開発。京銘菓とコラボすることで、地元だけでなく観光客の方々にもCFB事業について広く周知することができた。販売は地元土産店や東山八ツ橋本舗ECサイト等で行った。



**「祭り」連携モデル**  
祇園祭と連携して分別ごみステーションやごみ拾い活動を実施。京都市長も参加し、「祭り」から海ごみ削減をPRした。

**キッズ連携モデル**  
保津川周辺のごみ問題から海洋汚染を考える活動を通して子どもたちの意識向上と未来のリーダー育成を図った。

**プロスポーツ連携モデル**  
京都サンガと連携してホームゲームでごみ拾い活動、ごみ分別ステーション、皆のごみゼロ宣言を実施した。

**リュック型ごみ箱「BLUE BOX」の開発**  
京都の海ごみ削減活動のシンボルとして、場所を問わない多様な清掃活動のスタイルを実現した。

**CFBオリジナル生八ツ橋の開発**  
京都の海を想起させる塩つぶ餡入り生八ツ橋を開発。観光客などにもCFB事業の周知・啓発した。

### メディア露出



6/12「キモイリ！」



7/24「キモイリ！」



10/9「キモイリ！」



10/29『きらきん！』

その他：CFB動画を合計11本制作し、テレビでも放送を実施。

### 2021年度の課題とこれからの展望

2021年度は新型コロナウイルスの影響で中止や縮小となったイベントが少なくなかったが、各種イベントとの連携を増やしていくことで幅広い活動ができてきたと考えている。ただし、その活動の中で「京都府内のより広範囲で活動の趣旨や内容を知ってもらうためには軸となるアクションが必要であること」が課題としてみえてきた。今後は、12月にお披露目を行ったリュック型ごみ箱「BLUE BOX」に活用を軸に据え、京都府内全体における海プロやCFBの認知度アップを図りたいと考えている。2022年度は京都府北部の7市町全てがCFBの活動に何らかの形で関わる機会の創出を目指し、さらには府内全26市町村が海プロとCFBへ参画することを目指す。